

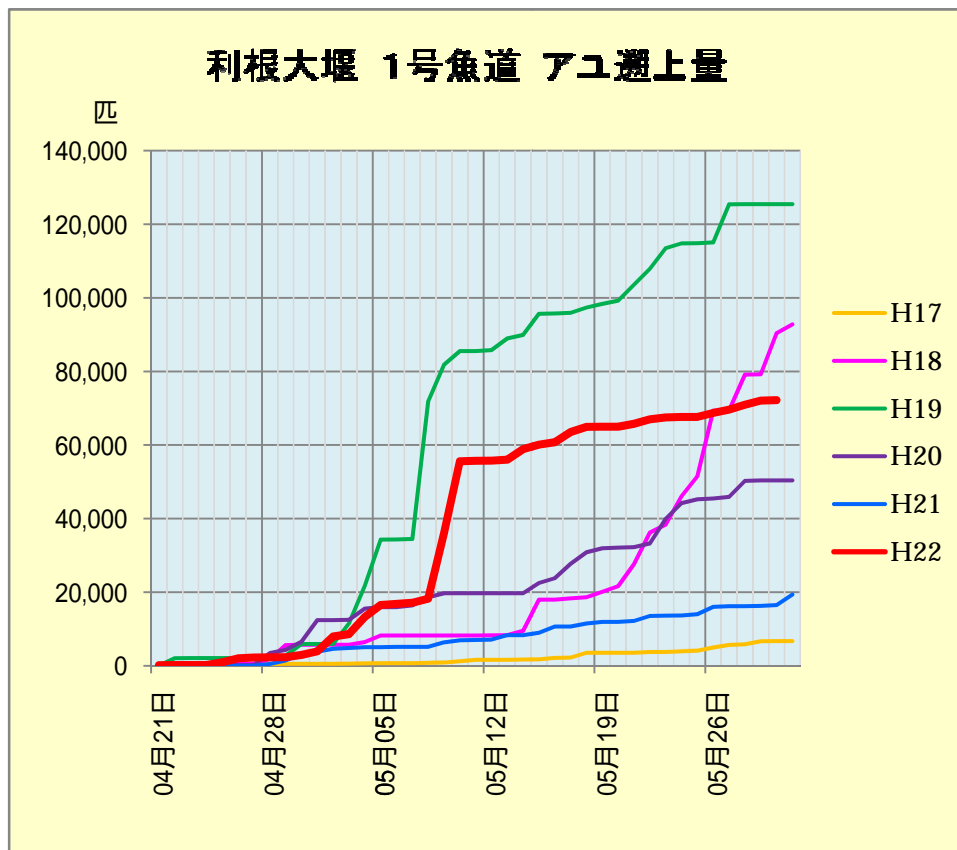
H22(2010年)利根川(利根大堰)

天然アユの遡上結果

今年は概ね順調！ 碓氷川は天然アユが？

利根大堰における天然アユの遡上調査が終了する時期になってきました。そこで、今年の遡上量とりまとめを行ってみましたので、報告します。

なお、利根大堰ではアユの遡上量調査を平成20年度から1号魚道(ガラス張りの魚道)のみとしています。過去の調査結果と比較するため、今回の提示図は1号魚道のみの実遡上量を図化しています。



(注)遡上数は、(独)水資源機構 利根導水管理事務所データによる。

調査データからは、観測史上最高の平成19年には及びませんが、直近6年間で第三位の遡上量が観測されています。今年は川の水量が多いので、調査データ以上に多く遡上している可能性も高いと思われます。

ところで、碓氷川の板鼻堰では、天然遡上アユがたくさんジャンプしている光景が見られます。堰をなかなか遡上出来ないアユ達です。



【写真は板鼻堰のアユですが、堰のエプロン上で群れになっています。】

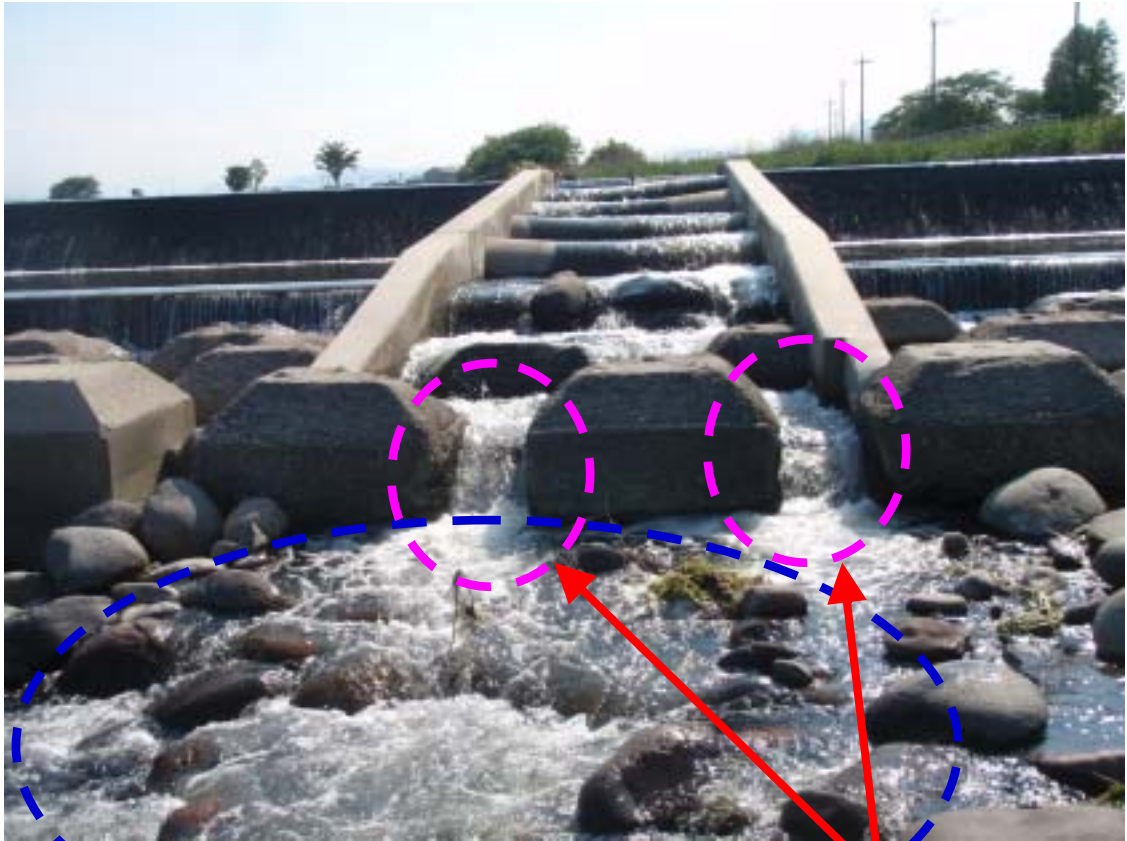
碓氷川の板鼻堰は魚道を改修したので、工事直後はアユが十分遡上しました。その結果、板鼻堰上流の碓氷川では天然遡上アユが釣れていました。

しかし、魚道工事は既設魚道のマイナーチェンジ程度の工事にとどめたため、心配されていた問題が顕著になってきました。その問題とは、1)魚道の入口が見つけにくいこと、2)魚道下流部の構造が魚道として機能しにくい事です。さらに、堰の下流河床が低下し、上記の問題に悪影響を与えている事です。その結果、堰を遡上しているアユの量は非常に少なくなってしまうように思われます。

最小限度の手当で、なんとか多くのアユ達が利用できるように対策を考える必要があるのではないのでしょうか？放置すると事態はさらに悪化の方向となる可能性があります。



【見にくい写真ですが、堰のエプロン上の遡上できない稚アユの群れ】



ここが遡上しにくい

ここにアユが集まりにくい

河床の低下

土のう等で仮設的な対応を行うことも考えられますが、大川ですのでちょっと雨が降ればすぐに壊れそうです。応急対策を打ち出しにくいのが現状です。